

鹿児島県  
総合  
防災訓練

被災者支援のための

# 災害ボランティアセンター設置・運用訓練



地震・洪水・崖崩れ等の災害を想定した、鹿児島県総合防災訓練が、5月26日、霧島市の霧島高原国民休養地を中心に開催されました。県社会福祉協議会は霧島市社会福祉協議会等と連携して、災害時のボランティア活動を迅速かつ効果的に展開し、高齢者や障がい者等のいわゆる災害時要援護者を中心とした被災者を支援できるよう「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」を実施しました。

## 霧島市を中心に大隅・北薩からも多数参加

当日は今にも雨が降るような暗雲垂れこめるもと、地元牧園地区の民生委員をはじめとして、霧島市内全域や北薩・大隅地区から福祉団体や社会福祉協議会職員総計99名が参加しました。まず、訓練開始にあたって、霧島市社会福祉協議会の松枝洋一郎会長が訓練への心構えについて話された後、県ボランティアセンターから目的や実施方法等の説明がありました。



## 参加者の感想等

東日本大震災が発生して復興に向け国を挙げて取り組んでいる中の訓練になったせいか、参加者も真剣に取り組んでいました。当地牧園町のある民生委員の方は、「新燃岳の噴火もあります。自分が被災者になったとき、どんな行動をとればよいのか分かった。日頃から緊張感をもって、地域の絆を強くしていなければならない。」と話していました。



## 県ボランティアセンター所長の講評

雨の中での訓練になりましたが、参加者全員が目的達成のために真剣に取り組んでいました。東日本では大震災で、その復興支援のために多くのボランティアが活動しています。本県でも新燃岳の問題があり、いつ災害に直面するか分かりません。「備えあれば憂い無し」。本日はその時に備えた訓練でした。日頃から地域でできることから取り組みましょう。



## 災害ボランティアセンター運用図

